

「粋な」緑学年に

皆さんは、「江戸しぐさ」を知っているでしょうか。

「江戸しぐさ」とは、江戸時代に江戸商人のリーダーたちが築き上げた、よりよく生きるルールのようなものになります。

例えば、足を踏まれて、「あいたたた…。」こんなとき、足を踏んだ人が謝るのは当然ですが、足を踏まれた人も「ごめんなさい」と謝る。踏まれた人が謝るんです。

「私がポーッとしていたのも悪かったです。こちらこそごめんなさい。」というふうに。

これは、「うかつあやまり」と呼ばれる「江戸しぐさ」の一つになります。

以下、「江戸しぐさ」を幾つか紹介します。

傘かしげ

雨の日に互いの傘を外側に傾け、ぬれないようにすれ違うこと。

肩引き

道を歩いて、人とすれ違うとき左肩を路肩に寄せてあるくこと。

七三の道

道の真ん中を歩くのではなく、自分が歩くのは道の3割にして、7割は緊急時などに備え他の人のためにあけておくこと。

足を踏まれたほうが謝る。これって、「正しい」か「正しくない」かで考えたら、たぶん正しくないでしょう。

「正しい、正しくない」という価値基準は、時代や地域、文化によっても大きく変わります。でも、私たちは、「正しい、正しくない」の価値基準で多くのことを判断しがちです。

また、「正しいほう」を選択するのではなく、「楽しいほう」を選択しようという考えもありますが、この価値基準はどうなのでしょう。

例えば、学級で、みんなが「自分たちさえ楽しければいい」と思って行動していたら、周りの人のなかには、嫌な思いをする人がでてくるはず。

「正しい、正しくない」や「楽しい、楽しくない」とい価値観ではなく、これからの価値観として、「粋か野暮か」という価値観を皆さんにもってほしいと思っています。

さっきの学級でのことと言えば、「自分たちも楽しみつつ、周りの人も心地いい」というのが「粋」です。

粋という言葉は、「かっこういいかどうか」、「品があるかどうか」、「美しいかどうか」に言い換えることができると思います。

自分たちだけでなく、周りのみんなの幸せを考えることが粋で、逆に自分のこと、自分の仲間のことしか考えないのは野暮。

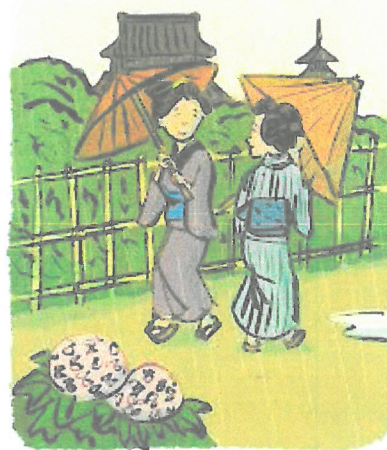
正しいか正しくないかではなく、

楽しいか楽しくないかでもなく、

粋か野暮か。そこで決めてみませんか？

すると、みんなが幸せな学級、学年、学校が生まれてきます。

これから、「緑学年は粋(かっこういい、品がある、美しい)だね」と言われるようがんばってみませんか？



お天道様は見ている

25日(水)から1月7日(火)から冬休みとなります。

ソシオドラマ「お天道様が見ている」にあったように、あなたの行動はお天道様が見ています。事件・事故に遭うことがないように、自分自身を律し有意義な冬休みを過ごしてください。三学期、元気な姿で会いましょう。